



analytica

MARCH 24-27 | 2026 | MUNICH



Messe München

ファイナルレポート

第 30 回 国際ラボテクノロジー・分析技術・バイオテクノロジー専門見本市・会議
2026 年 3 月 24 日～27 日

2026 年 3 月 27 日

analytica 2026: 来場者の増加、満員の会場、将来テーマの明確化により一段と存在感を高める



Summary

- 40 カ国から 1,135 社が出展
- 115 カ国から約 35,000 人が来場
- AI および自動化が業界のイノベーションを牽引

Facts & Data

会 期	2026 年 3 月 24 日(火)～27 日(金) 午前 9 時～午後 6 時(最終日午後 4 時まで)
会 場	メッセ・ミュンヘン
主 催	メッセ・ミュンヘン(Messe München GmbH)
規 模	全 5 ホール 約 55,000 m ² (2024 年:55,000 m ²)
出 展 企 業	40 カ国から 1,135 社(2024 年:42 カ国から 1,066 社)
来 場 者 総 数	115 カ国から約 35,000 人(2024 年:119 カ国から 33,386 人)
専 門 分 野	ラボテクノロジー、分析技術、品質管理、バイオテクノロジー・ライフサイエンス・診断技術
主 な 出 展 品	アプリケーション、分析・診断機器・処理・技術、検査・測定・品質管理、情報・サービス、ラボ装置、試薬・化学製品、バイオテクノロジー公衆衛生関連技術、スタートアップフォーラム(技術交流、各種コンサルティングほか)
専 用 U R L	www.analytica.de (英語 / ドイツ語)

2026年3月24日から27日までミュンヘンで開催された analytica 2026 は、来場者数は一層増加して会場は満員となり、出展者の満足度は非常に高いことを受け、国際的ラボラトリー業界の革新性および将来志向性を、強く印象づける結果となった。40カ国から1,135社が出展し、ラボテクノロジー、分析、バイオテクノロジーの全領域にわたる世界初公開製品や新製品を、115カ国からの約35,000人の来場者に紹介した。各ブースでの対話や併催プログラムにおける議論は、デジタル化、自動化、サステナブル化を進めるラボのあり方について、とりわけAIを中心に展開された。

メッセ・ミュンヘンのCEOラインハルト・ファイファーは、「来場者数と出展者数の顕著な増加に加え、国際色豊かな参加者構成に鑑みて、analytica 2026は世界有数の見本市としての地位にあることを改めて確認した。食品・品質管理、ライフサイエンス、環境技術といった成長分野に不可欠な基盤を提供する産業のダイナミズムと革新力を、今回も浮き彫りにする結果となった」と述べている。

そして、analytica 担当ディレクターのスザンネ・グレードルは、「analytica 2026は、展示エリア、カンファレンス、併催プログラムのいずれにおいても、業界の最重要テーマを一貫して取り上げてきた。それにより、トレンドを具体的に示し、専門知識を提供し、ラボの将来への方向性を示す独自のプラットフォームとなっている」と付言し、「出展者および来場者から寄せられた肯定的な反応は、こうした取り組みが業界のニーズを的確に捉え、業界に重要な推進力を与えたことを示すものである」と述べている。

出展者から極めて高い評価

出展各社の本見本市に対する満足度は総じて高い。多くのブースでは終日活発な商談や意見交換が続いた。Lauda Dr. R. Wobser社のマネージングパートナー（オーナー経営者）であり、新たに analytica 諮問委員会委員長に就任した Günther Wobser氏は、「analytica 2026は、業界にとって最も重要な国際的交流の場としての地位を、更に確固たるものとした」と総括している。

また、Thermo Fisher Dreieich社のマネージング・ディレクター Sylveer Bergs氏は、「analyticaは業界関係者が結集するプラットフォームである。高度分析技術、統合型ライフサイエンス・ワークフロー、デジタル化・自動化されたラボ、そしてサステナブルかつ規制対応型のアプリケーションを紹介し、単体機器から、データを基盤としたコネクテッドなエンドツーエンド・ソリューションへの移行を反映している」と述べている。

さらに、Schmidt + Haensch社のマネージング・ディレクターで、業界団体 Spectarisの分析・バイオ・ラボ技術部門の部門長を務める Mathis Kuchejda氏は、「近年の厳しい市場環境にもかかわらず、業界には依然として前向きな機運が強い。これは高い技術革新力と中長期的に良好な成長見通しに支えられているものである」と述べている。専門家らは、今後数年間において、世界のラボ市場が年率5%で成長すると予測している。こうした発展を牽引しているのは、主として自動化、ロボティクスの進展に加えて、ライフサイエンス、創薬研究、環境分析などへの投資拡大である。

主な見どころ:最新のラボに関する特別企画

恒例の充実した併催プログラムでは、講演、パネルディスカッション、特別展示を通して、業界の重要テーマが分かりやすく紹介された。中でも Special Show Digital Transformationをはじめとする毎日のライブ・デモンストレーションは大きな注目を集めた。主催者一人で SmartLab Solutions社のCEO Felix Lenk氏は、「ライブ・デモンストレーション開催中だけでなく、AI、デジタル化、自動化、ロボティクスに関する数百件に及ぶ個別対話においても、来場者の高い関心と熱意がひしひしと伝わってきた」と、イベントの成功について非常に前向きに評価している。

会場近くに設営されたライブ・ラボでは、現代のラボ業務における典型的な作業プロセスを専門家が連日何度も紹介し、そのたびに観覧席は満席となった。また、Lab Safety Forumにおいて、爆発音や煙の発生などの、ラボ作業の現場に潜むリスクを実験デモンストレーションで分かりやすく紹介し、高い人気を博した。そして、最



終日に開催された Jobday には多くの来場者が集まった。特に、新卒者や若手人材にとっては、業界のキャリアパスについて学び、潜在的な雇用主と直接交流ができるという絶好の機会となった。

最高水準の学術交流

併催されたサイエンス・カンファレンスでは、2,000 名を超える参加者を集め、専門家による活発な議論が交わされた。

サステナブルな小型ラボシステムについて講演を行った Justus-Liebig-Universität Gießen (ギーゼン・ユストゥス・リービヒ大学) の教授 Gertrud Morlock 氏は、「分析はあらゆる知識の基盤である。このことは、産業界と学術界を結びつけている analytica conference において改めて明確となった」と述べている。

また、analytica 担当ディレクターのスザンネ・グレードルは、analytica conference は、世界でも最も重要な科学会議の一つとして認識されており、その評価は参加者との数多くの対話の中で繰り返し確認された」と、喜びをもって語っている。

多くのセッションでは、デジタルラボやグリーンラボといったトレンドテーマが取り上げられ、高い関心から満席となるケースも多々見られた。そのほか、法科学分野におけるデザイナードラッグの検出、蜂蜜の植物学的起源を分析する革新的な質量分析手法、さらには古文書の材質や成分を科学的に調べるための特殊な分析手法など、多岐にわたるテーマで講演が行われた。



数字で見る analytica 2026

出展者数は 40 カ国・地域から 1,135 社 (2024 年: 1,066 社) で、そのうち 56% がドイツ国外からの出展であった。ドイツに次ぐ出展社数上位の国は、中国、米国、イタリア、英国、オランダ、スイス、フランス、インド、スペインの順である。

また、来場者数は 115 カ国・地域から約 35,000 人 (2024 年: 33,386 人) で、そのうち約 40% がドイツ国外からの来場であった。ドイツに次ぐ来場者数上位の国は、オーストリア、スイス、イタリア、英国、フランス、オランダ、トルコ、ポーランド、チェコ、米国の順である。

次回の analytica は、2028 年 4 月 25 日から 28 日まで、analytica カンファレンスと併せて開催の予定。

出展日本企業 (現地法人・代理店出展含む):

(株)アルバック、(株)ウエルコ、(株)エアーテック、(株)エス・テイ・ジャパン、樫山工業(株)、(株)キーエンス、(株)島津製作所、ジーエルサイエンス(株)、(株)写真化学、柴田科学(株)、(株)清和光学製作所、田中科学機器製作(株)、東ソー(株)、ナカライテスク(株)、(株)ニコン、日本ジェネティクス(株)、日本電子(株)、日本トムソン(株)、一般社団法人日本分析機器工業会、日本分光(株)、ネクサス(株)、(株)ハイロックス、浜松ホトニクス(株)、(株)日立ハイテック、(株)平山製作所、(株)堀場製作所、(株)マイクロサポート、メタセンシング(株)、三和電気(株)、(株)リガク、(株)レゾナック、(株)ワイエムシィ 他 (50 音順)

資料請求、出展申込み、各種お問い合わせ先:

メッセ・ミュンヘン 日本代表部

株式会社メッセ・ミュンヘン・ジャパン

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-20-3 ノアーズアーク虎ノ門 5 階

Tel.: 03-6402-4583 Fax: 03-6402-4584 E-mail: info@messe-muenchen.jp

URL: www.messe-muenchen.jp (日本語) www.messe-muenchen.de (英語 / ドイツ語)